

協豊会東海地区 レベル向上活動

もっといいクルマづくり 「水素社会研修会」を開催

協豊会東海地区は12月14日（月）、東海地区幹事を対象に、「水素社会研修会」を実施した。

当日、東海地区幹事9名と総務委員5名の合計14名は、早朝より福岡市内からバスにて出発し、まず始めに水素エネルギー関連研究において、基礎基盤から産学連携までわが国随一の取組みをしている、九州大学伊都キャンパスを訪問した。

ここでは、水素エネルギー国際研究センター長 佐々木一成様から、将来の社会においていかに水素エネルギーが必要不可欠であるか、詳細な資料を交えて説明をいただき、その後、次世代燃料電池産学連携研究開発施設「NEXT-FC/I₂CNER」や「燃料電池発電所」などを視察し、最後に水素と材料に関わる研究を推進している世界でも唯一の施設、「HYDROGENIUS」を見学した。



【水素エネルギーの普及に向けた取組み説明】



【燃料電池発電所：九州大】



【水素蓄圧器：九州大】

午後からは、水素エネルギー分野をリードする産学官の重鎮が結集する〈福岡水素エネルギー戦略会議〉を核として、福岡県の水素戦略を推進し水素エネルギー産業への参画を支援している、水素エネルギー製品研究試験センター「HyTReC」を訪問した。

センターでは、水素関連製品の耐久性試験や民間企業との共同開発研究などについて説明をいただき、その後、大型水素容器試験施設「CRADLE 棟」を視察し、水素ステーションなどで使用される水素容器の実験室などを見学した。

そして最後に福岡市に戻り、「福岡市中部水処理センター」を訪問した。ここでは、下水処理で得られたバイオガスを原料として水素を製造しており、サイト内にある水素ステーションを介して燃料電池車などに供給される、水素ガスの製造過程や設備を視察した。

このように大変あわただしいスケジュールの中、数多くの施設を視察見学し、近い未来の水素社会の到来に向けて、それぞれの施設においてその意義を十分に理解して、大変充実した一日となった。



【水素爆発実験サンプル：HyTReC】



【水素ステーション：福岡市水処理センター】